世田谷区基本構想審議会第３部会（第１回）　議事要旨

【日　　時】　平成 24 年 2 月 29 日（水）　午後６時～午後８時
【場　　所】　世田谷産業プラザ　会議室
【出 席 者】
■委　員　　大橋謙策（部会長）、森田明美（副部会長）、大森猛、宮田春美、
上野章子、宮本恭子、風間ゆたか、田中優子、
小林正美（第２部会）、永井ふみ（第２部会）　以上 10 名
■　区　　小田桐政策企画課長、吉原政策研究担当課長、吉田政策経営部副参事

【議事概要】

1　部会の視点

子ども、青少年、教育、福祉・保健・医療、男女共同参画

2　主な意見

・第３部会の分野では既に計画がある。各計画の策定においてはそれぞれの審議会があり、区民参加も図られており、議論のベースとするべきだ。ただし、問題はテーマ間の串刺しの議論ができていないこと。
・区から既存事業や既存計画の説明を受けない方が、現在の枠にとらわれない議論ができると考える。一つ一つの問題を所管に説明させるよりは、20 年後の世田谷に向けた、広い視点で議論する必要がある。
・第３部会は、福祉、教育、男女共同参画、子ども・青少年とさまざまな生活者の視点がある部会である。できるだけ分野を横断する串刺しの議論をしたい。
・子ども本人の意見を組み入れる取組みが必要である。また、子どもたちにも大人がこういう議論をしていることを伝える必要がある。
・子どもたちにも分かりやすい中間のまとめを示して、意見を聞く必要がある。子どもたちは 20 年後の大人なのだから。
・外国人についても、分かりやすい中間まとめを示すなどの方策が必要だ。
・ひとことに地域と言っても、区の話か、支所の話か、27 地区なのか、もっと細分化した区域のことを言っているのか考える必要がある。国・都と区の間だけではなく、自治体内の分権のありようも課題となる。
・世田谷区の福祉はまだ施設型で、地域での暮らしを支える仕組みは不十分になっている。この 10 年で家族のあり様が大きく変わるだろう。家族を丸ごと支えるしくみづくりが必要となっている。
・様々な仕組みをつくっても、住民力がないとうまくいかない。すべての住民が社会参加をしていくような一種の社会教育が重要になってくる。
・世田谷区の学校教育でも地域で子どもを育てようという動きがある。25 年度には全てコミュニティースクールとして位置づけており、教育に関しても、地域で暮らせる社会システムに向けて議論が進んでいけるのではないか。

・例えば、神戸では震災後、医療に力を入れており、神戸といえば医療というのが最大の売りになっておる。また、秋田といえば教育というイメージがある。今から、20 年後にこのようなブランドを世田谷が持つことができるか、そのような議論をしてもよいのではないか。
・高齢者の見守りネットワークの取組みで、地域の様々な主体が連携して、見守りから出発して、まちづくりへと向かっている。「向こう三軒両隣」のご近所づきあいへの原点回帰を目指す。

3　次回以降の進め方（部会長のまとめ）

①次回は、部会員が現状の共通認識を持つため、世田谷区の取組みのうち、良い点、問題点、進んでいる点、遅れている点を区側が説明し、質疑応答を行う。

②第３部会の視点を軸に、分野横断（串刺し）すべきテーマの検討（例．子どもとコミュニケーション、高齢者とまちづくり）、他の部会への発信を検討する。

③上記①・②を踏まえて、20 年後を見据えた大胆な検討を行う。

・発想を大きく変えるべき部分と、現在の計画のマイナーチェンジに留まる部分がある。
・家族形態の変容、技術開発（例．介護ロボット）など、議論の根本に関わる変化もある。
・現在にも変化の「きざし」がある。これを捉えれば、10 年後の予測はできると思う。各部会員がキャッチしている「きざし」を出し合うことが大事。

④子どもたちの意見を聞く方策については、今後部会で検討する。

・部会に呼ぶのか、他の方法（メール等）を取るのか、具体的方法は今後検討する。
・子どもに対する意見募集手法に工夫が必要である。（夏休みの宿題にする、意見募集のための子ども向け中間まとめの作成など）。

⑤第３部会共通テーマは、「地域で暮らせる社会システムをつくる」と言える。